

自校の生徒指導に関するチェックシート

西部教育事務所

西部教育事務所では、「自他を尊重する心を育む積極的な生徒指導の充実」をお願いしています。1学期の自校における生徒指導について、以下の観点から振り返り、成果と課題を明らかにしておきましょう。また、2学期に向けて、教職員一人一人が取り組むべきこと、学年、学校全体で準備しておくべきことについて確認しておきましょう。



A：十分できている B：おおむねできている C：改善が必要である

項目	No	内 容	評 価 (○を付ける)
授業・学級経営	1	生徒指導の3つの機能（自己決定、共感的人間関係、自己存在感）を生かした授業や学級経営を実践している。	A・B・C
	2	教師と児童生徒、児童生徒同士の信頼関係を基に、互いのよさや違いを認め合う場を意図的に設定し、所属感や連帯感をもてるような学級集団づくりを進めている。	A・B・C
	3	輪番制の計画委員会を中心とした学級活動を実践するなど、児童生徒の自発的、自治的な活動を取り入れた特別活動を展開している。	A・B・C
	4	学級の実態を踏まえ、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れ、児童生徒の望ましい人間関係づくりを進めている。	A・B・C
	5	学習ルールや集団生活のマナーの大切さについて、児童生徒とともに考える場や機会を設けている。	A・B・C
組織的な支援体制	6	学校で目指す児童生徒の具体的な姿や生徒指導の重点、生活のきまりなどについて全職員で共通理解している。	A・B・C
	7	「学校評価アンケート」や「生活アンケート」、「日常的な観察」で把握した児童生徒の実態を全職員で共通理解している。	A・B・C
	8	いじめ、不登校、問題行動等に対し、全職員の共通理解のもと、役割を分担し、組織的・継続的な指導をしている。	A・B・C
	9	いじめ、不登校、問題行動等が心配される児童生徒について、指導記録や観察を通して把握した実態を担当者が引き継いだり、教職員間で共有したりしている。	A・B・C
	10	児童生徒の実態に応じて、保護者やSC、SSW、関係機関（適応指導教室、児童相談所、民生委員等）と連携を取り合って支援している。	A・B・C
	11	生徒指導担当が参加した研修の復命や、国や県・市町村の生徒指導に関する通知・配付資料等を生かして実践に努めている。	A・B・C
いじめ	12	学校いじめ防止基本方針の内容を理解し、その方針に沿って生徒指導を行っている。	A・B・C
	13	いじめについて学級で考える機会を設定するなど、いじめは絶対に許さないという学年・学級の気運の醸成に努めている。	A・B・C
不登校	14	前年度までの欠席日数累計が、30日以上の子供生徒を全職員で把握し、必要な働きかけや体制作りを行ったり、学級編成などを配慮したりしている。	A・B・C
	15	児童生徒の些細な変化にも目を向け、休み始めに電話連絡や家庭訪問を行ったり、校内に相談しやすい居場所を設けたりするなど、登校しやすい環境作りに努めている。	A・B・C
	16	小中連携や同一中学校区内の小小連携を図り、不登校が心配な児童生徒に対する支援体制を整えている。	A・B・C
問題行動	17	SNSトラブルや万引等を未然に防ぐための指導を計画的に行っている。	A・B・C